



書道家
武田双龍



先月の「綺麗な人・イカす人」珠玉の言葉
河瀬直美

×



第三十筆

終わりをよければすべてよし。

バスケットボールのコーチに言われた言葉ですね。私、実は国体の選手だったんですよ。どういう意図で言われたかはわからない。見ていて、私があやうかったんでしょうね。「君は人と人との狭間で能力を発揮するだろう。終わりよければすべてよし」と言われた。自分の中で納得して先に進む、というのが信条としてあって。そこにつながっていった言葉なんだとは思っています。

武田双龍

ぐだぐだと悩むより、現段階での自身の力量の限界を認識し、次のステップに進む潔さが重要だと考えています。

昭和五十九年熊本県生まれ。三歳より書を学び始め、母・武田双葉に師事。書道家・武田双雲は実兄。書道教室 ふたばの街を開講。テレビや新聞、雑誌など幅広いメディアで活動中。
<http://so-ryu.com/>